

しんせつ調査

野内の小・中学校に、次のことを書かせてもらった。

一、ひとに「しんせつ」をしてよろこばれたこと。

一、ひとから「しんせつ」にしてももらってうれしかったこと。

一、ほかの人が「しんせつ」にしているのを見て、かんしんしたこと。

全学年を通じて、多い順にあげると。

荷物をもつてやる	三三	「しんせつ」された。	一九
かせいする	三三	傘に入れてもらう	二九
道をおしえる	三二	手当してもらう	二三
傘に入れてやる	二五	貸してもらう	二五
子守	二四	持ってもらう	二四
		席をゆずってもらう	二一
		道を教えてもらう	一〇
		「しんせつ」を見た。	

学年によるちがい	一六	○かせいする	二一
席をゆずるのを見る	一一	○道をおしえる	二一
手伝っているのを	一一	○荷を持ってやる	二一
手当しているのを	一〇	○傘に入れてやる	二一
荷を持ってやるのを	一〇	○持たない人に貸してやる	二一
		○席をゆずる	二一
		なむ、三年ごろから始まり、四	
		年になると、ドツと出たす。しか	
		し、お使いとか、持ててやるとか	

学校によるちがい
「傘に入れたり、入れられたり」
するのは平国は少ないが、赤崎は
だんだん多い。
「くるまに乘せてもらった」は平
国が多く、赤崎はわずか。
「学科をおしえてもらって喜んだ
ものが平国には多く、赤崎は少
ない。」

るすお助けしている。とくに野崎良文君は三年ながら綱をなけて助けている。

「げんか」をよめたのが二件（赤小三篠原美奈子、篠原美智子）男の「げんか」をよめたところにおもしろいところがある。

「すずめ」をつれてきて、あたためてやった。そして「すずめ」にも、しんせつにしておつてよかったと思ひました。」といっている。（平四年長浜聖子）

「けんを片づける」（赤六年森山法明）勇氣を要する。人の見えない時だったら、えらいことだ。（津小は全部にわたらなかつたので、今回は赤崎と平国のみ）

備考

調査の対象は、赤崎小一四四人、平国小二一六人。

わたくしたちの子供のころからわが赤崎に「伍太夫どん」という強い相撲ごきさんがいた、古者から聞いておりました。

ひじょうに強かったエゴは、近郷近在ばかりでなく、相撲界の人は、他の市町村の関取衆の間にも有名であり、数多くの伝説が残っておりまゝ。そのおもしろい逸話伝説は後に述べるとします。

わたくしは、同郷のものとして荒屋伍太夫の伝説のおこる実伝が、知りたくなりませんでした。が、二百余年も前のことで、その調査は困難でありました。

たまたま、一昨年秋、明治百年記念展覧会開催にのぞき、故々々岩崎母生先生から、荒屋伍太夫の調査を、任されました。わたくしも

で、百年記念展に右の旨を發表して、現在、子孫の大伯の佐々木兼光様宅に安置の伍太夫のお位牌を拝覧して、共に町民のみな様に観覧していたのだいた次第であります。

なお、吉田家の附記に、前記「故美門人」とは「量人品」とも、他にすぐれたもので、横綱を張つたものみに授与されるのことで、今日では「横綱格」であつたわけです。これを「行司」ではなく、木村庄之助、式守伊之助の二人が立行司で、相撲界では最高の榮譽であります。

当時の横綱といへば、今日のよきに数えざるまでも、いつのてなくそれにあたいしなくてはならなかつた時代の横綱ですから、稀世の力士だつたに違いありません。

津南先生

とある。門生が医者さんなればこそである。

門生といへば、津南塾の門生で塾の先生はいうまでもなく、津南先生、医を志すものが、先生の名を聞いて、八代から、天草から、出水から、宮崎、鹿児島から集つてきた。

この塾のあった深木家は、津奈木駅南、百米ばかりの、小高いところにあった。このあたり浜崎は医学生が、それぞれのお国なまり

碑の正面から、先生の伝記がはじまっている。(漢文)

「これ 津南先生宗安君の墓となす。君は、故参河の守深水宗方の裔(子孫なり)。(註深水三河守は津奈木の城主三河守に弟有り、郡介といふ。)

その子孫で僧となる人あり、医となる人あり。僧となられたのが、町中の正行寺の深水家であり、始めて医となられたのが、深水玄庵とある。

がせ、奥さんへ、玄庵の女へむすめである。



深水家墓地・入口の石灯籠2基は門生奉納のもの。
左の灯籠の前は長胤先生の墓。その左（木で右肩が
かくれている）が宗安・津南先生の墓である。

大関 荒滝伍太夫伝

林田義人

荒滝伍太夫は、宮相模大関で、
延享年間（今より三百三十年前）
に、「東大関・仙台丸山権太左衛
門」「西大関・肥後蘇蘇獄右衛
門」と共にわが荒滝伍太夫は吉田
司家、第十六代吉田追風守より故
実四人に列せらるゝと記録に残つ
ているのをお知らせでありました
わたくしは意気昇天のうれしさ

その碑石は、ここの四月下旬
老人クラブ員と町議外有志で三日
がかりで車道まで運びました。
この顕彰は赤崎だけのものでな
く、町として取りあげていただき
たいと、鶴田町長にも御相談申し
あげております。

横綱伍太夫にささぐしい顕彰碑
が完成しますよう、町民のみなが
んの御協力をお願いします。

海域開発の幕開け

福浦海岸廻りの道路開通

福浦にゆく道は、福浦半島の首のところを通っている。こんどできた道は、半島の海岸線にそうできたもので、長さ四、五キロ「福浦漁港関連道」と長たらしい名で呼ばれる。一億の金と、十六年の年月をかけてできた。一年に二八〇米づつできたかんじよになる。まことに気の長い話であるが、それだけに、地元民の執念がうかがわれ、その熱意に頭が下がる。

問題になっているが、この道は、海岸の景色のよいところを通して、観光道路として申し分はない。

津奈木町で開いている「三ツ島海水浴場」はその途中にある。

海水浴場前の三ツ島は、芦北湯浦・津奈木と二つづつ分けてはいるが、眺めからすれば、三つあわせてここから一望できる。

右端副知事も、六月三日の竣工

れたが、全くその通り、この道路を開発の出発点とし、そして六月三日を開発の出発日としてこの事業が進展するのを祈念してやまない。

もちろん、この道は漁かく物をはくのに便利

近ごろ「芦北海域総合開発」が

有利な檜栽培 (二)

苗木の植え方

六車孝吉

今回はみぎやヒノキの新しい
 方方について説明します。

徳川時代には、一日八十本から
 百五十本うえていました。現在で
 は、百本から三百五十本うられ
 ています。これは、吉野林業の五
 百本から六百本うる、いわゆる
 「二畝うえ」の明治造林学の流れと
 いわれている。いうなれば、今日
 は徳川時代より、粗雑なうえ方を
 していることになります。

先ず、苗木の根は直射日光に
 てるゝと、根の一番先きの細いところ
 は、わずか二分間で枯れ、その上
 上の細根は五分間で枯れるとい
 ます。それで、直射日光を避け
 手早くうえつけねばなりません

うえるところが平地なら、一メ
 ートル四方くらいの、枝や葉を
 きのけて、地表をむき出しにし
 肥料分をもった黒い土なら、片
 きによせておきます。そして片

けた土地を耕します。かたいところほどよく耕し、中央を、直径十センチ、深き三センチばかりの穴を掘つて、さきの黒い土をおワンを伏せたように入れ、苗根をよくひろげてのせ、土をかながら、一方、苗を上下にゆきりながら、うごめかします。黒土なくとも結構です。

うえる深さであります。苗畑にあったときの地上部の、三分の一か四分の一程度穴に入れます。深うえの効果は、かんそうを防ぎ、風によるゆれ動きを防ぎますが、幹から太い側根がたくさん出て、うえた年からの旺盛な成長は望みません。

なほ うえつけの上、肥料をやると失敗が多いといいますが、肥料を根に直接かけなければ、ほとんど枯れません。失敗するのはむしろ、肥料をつかんだ手で、根をいじつために枯れるようです。

こつとして言えますと、一日六十本くらいしかうえられません。なれてくれば、八十から百くらいいうえられるようになります。

水俣病であれば
 1 医療費
 2 医療手当
 3 看護手当
 が昭和四十五年二月一日からも
 らえるようになりました。
 ただし「水俣病である」と知事
 から認定された人でなければなり
 ません。

だから「水俣病ではなからうか
 と思われたら、認定をうけねばな
 りません。その手続きは、津奈木

町役場国民課を係開田がいたしますので、お申し出下さい。

御参考まで申しますと、県知事が水俣病患者と認定したものは、現在六十七人います。

なお、

政府は、昨年十一月十五日に、「公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法」を公布しました。水俣病は、この法律によっていろいろの支給があるようになったわけです。

(開田 正)

自転車の安全な乗り方

自転車
事故二つ
四月のなか
小雨降る朝ま
き、自転車で
国道三号線上
から、右折し
うよするととき
水俣方面から
たライトバン
衝突した。体
すくわれて、
ロントガラス
粉砕し、さら
地面にたたき
けて頭や身を
く打った。
さいわい生
には別状なく

そのこのあった日から一日おいて、田浦町で同様の事故がおきた。即死同様の被害であった。十分な手当をされたが、とうとう死亡。

自転車での右折がおそろしくなつた。

正しい自転車の乗り方

一、道の左はしによって、一列に。

二、交通のはげしいところでは、乗らない。

三、四つかどでは、手前で止まつて安全をたしかめて。

六、乗るとき、下りるときは、前後を見てから。

七、鉄道踏切では、下りて、安全をたしかめて、押して通る。

八、乗る前には必ず、車のぐあいをしらべる。

安全な乗り方

一、反射鏡のない自転車は、まことにあぶない。すぐそこに自転車を見つけてハッとすると、おかしなことになる。(運転手)

二、二人乗りはあぶない。また、重い荷をつんだときも。(フラフラして、とてええなれたら最後だ。)

